

# 福岡中央地区（第3期）都市再生整備計画 事後評価

## I. 都市再生整備計画事業について

本市では、国の補助制度である都市再生整備計画事業を活用して、福岡駅周辺エリアが有する生活基盤や歴史・文化資産を活かした『地域拠点の形成』を目標に、福岡らしさを大切にしたい住みよい、にぎわいのあるまちづくりに向けて、様々な事業を進めてきました。

都市再生整備計画事業では、事業実施前の計画段階で目標となる数値指標を設定し、事業最終年度以降に事後評価を行い、達成状況等の確認を行うこととされています。

## II. 福岡中央地区（第3期） 都市再生整備計画の概要

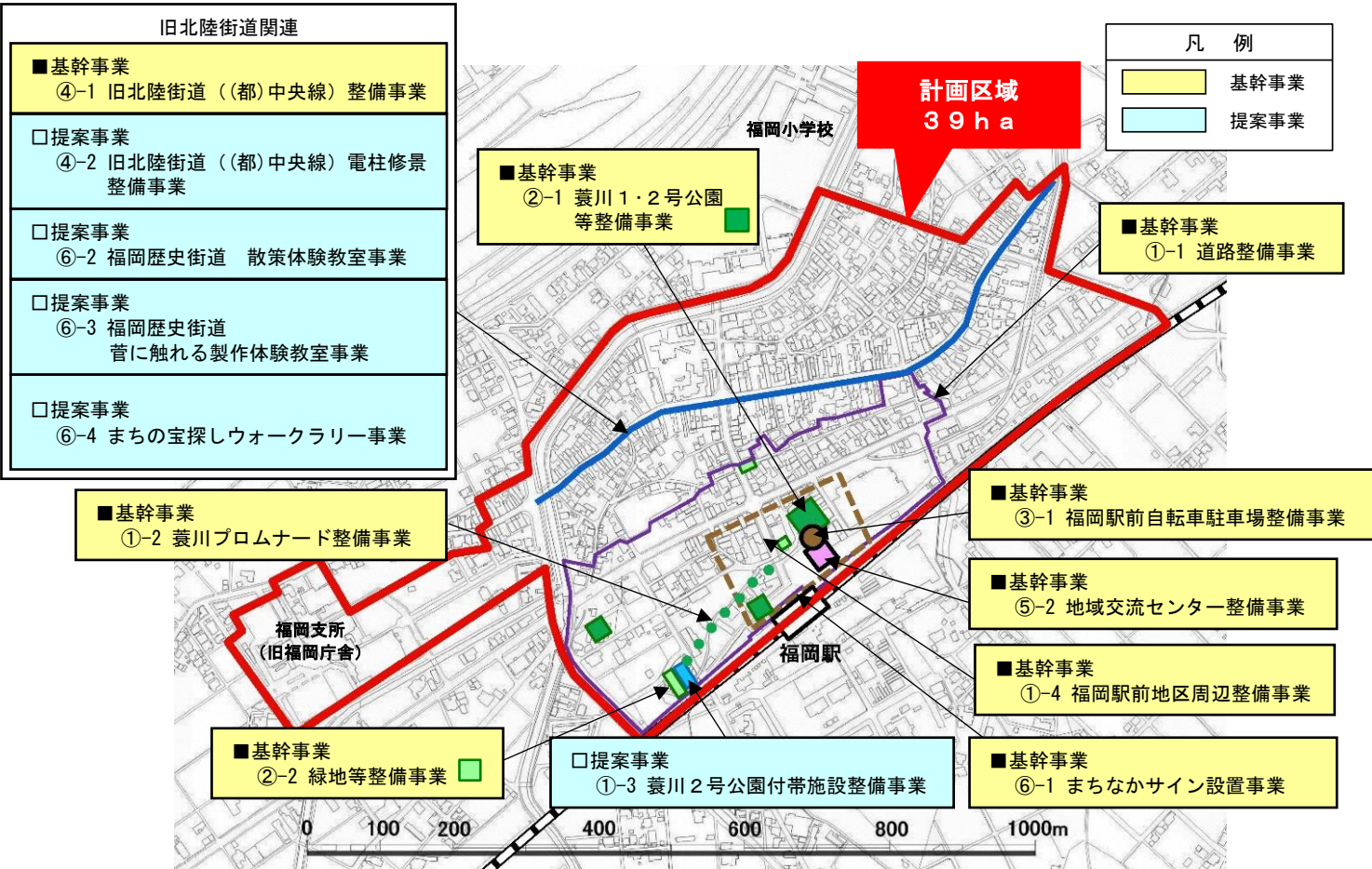
- ◇計画期間
- 平成31年度（令和元年度）～令和5年度
- ◇目 標
- 福岡中央地区が有する生活基盤や歴史・文化資産を活かした『地域拠点の形成』
- 【小目標1】
- 安全性、快適性、利便性の高い生活拠点づくり
- 【小目標2】
- 歴史・文化資産を活かした交流拠点づくり

### ◇目標を定量化する指標

| 指 標 ※[ ]内は定義 |                                                                                        | 従前値                 | 目標値                | 小目標との関係 |   |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|--------------------|---------|---|
|              |                                                                                        |                     |                    | 1       | 2 |
| 指標1          | 地区内の人口密度<br>[計画区域内の人口密度]                                                               | 30人/ha<br>(H27)     | 30人/ha<br>(R5)     | ●       |   |
| 指標2          | 住民満足度<br>[住民アンケート調査における福岡駅周辺エリアの利便性が良いか、活気やにぎわいが感じられるかという問いに『そう思う、なんとなくそう思う』と回答した人の割合] | 48%<br>(H30)        | 58%<br>(R5)        | ●       | ● |
| 指標3          | 文化交流施設の入館者数<br>[福岡にぎわい交流館、福岡中央公民館本館（Uホール）、ミュゼふくおかカメラ館、まちづくり福岡工房、雅楽の館、]                 | 125,365人/年<br>(H29) | 140,000人/年<br>(R5) |         | ● |

### ◇整備方針と主要事業

| 整備方針                            |                              | 主な事業                                                                                                            |
|---------------------------------|------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【小目標1】<br>安全性、快適性、利便性の高い生活拠点づくり | ①歩いて暮らせるまちづくりの推進             | 1 道路整備事業（福岡駅前土地区画整理事業区域内）<br>2 蓑川プロムナード整備事業<br>3 蓑川2号公園付帯施設整備事業（蓑川護岸整備など）<br>4 福岡駅前地区周辺整備事業（駅前広場及び駅前線のカラー舗装化など） |
|                                 | ②潤いのあるまちづくりの推進               | 1 蓑川1・2号公園等整備事業<br>2 緑地等整備事業（緑地・ポケットパークの整備）                                                                     |
|                                 | ③地域の生活拠点としての利便性を高める交通結節機能の強化 | 1 福岡駅前自転車駐車場整備事業<br>2 福岡駅前地区周辺整備事業（再掲）                                                                          |
| 【小目標2】<br>歴史・文化資産を活かした交流拠点づくり   | ④歴史・文化資産の価値の向上               | 1 旧北陸街道（（都）中央線）整備事業（照明灯の修景整備）<br>2 旧北陸街道（（都）中央線）電柱修景整備事業                                                        |
|                                 | ⑤歴史・文化資産と一体となった交流の場の形成       | 1 蓑川1・2号公園等整備事業（再掲）<br>2 地域交流センター整備事業（福岡にぎわい交流館の駐車場・多目的広場の整備）                                                   |
|                                 | ⑥歴史・文化資産のPR等を兼ねた交流機会の創出      | 1 まちなかサイン設置事業<br>2 福岡歴史街道 散策体験教室事業<br>3 福岡歴史街道 管に触れる製作体験教室事業<br>4 まちの宝探しウォークラリー事業                               |



## ◇主要事業の進捗状況

### ①-4 福岡駅前地区周辺の整備



快適で魅力的な歩行空間の創出、利用者の利便性向上を図るため、シェルター（歩行者用の屋根）や無散水融雪、タイルの設置等、駅前周辺の整備を実施した。

### ①-1 生活道路の整備



緊急車両等の通行ができるよう、道路幅員を拡幅し、安全で快適な道路空間の整備を進めている。

### ①-2 蓑川プロムナード整備



歩行者が安全で快適に歩くことができるよう、蓑川プロムナードの整備を進めている。

### ②-1 公園等の整備



中心市街地の潤い、憩いの空間となるよう、公園やポケットパーク等の整備を進めている。

### ③-1 自転車駐車場の整備



自転車利用者の利便性の向上を図るため、自転車駐車場を整備した。

### ④-1 旧北陸街道の整備



菅笠問屋の歴史的な町並みが残る旧北陸街道において、道路の修景整備を進めている。

### ⑤-2 多目的広場の整備



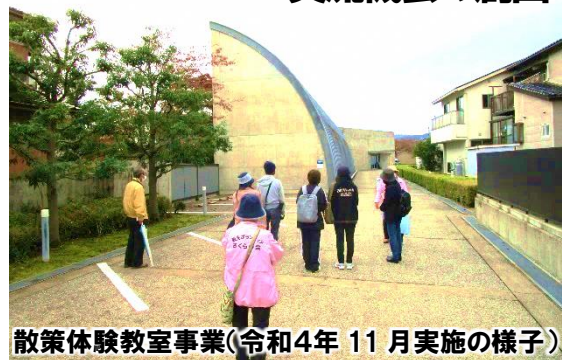
隣接する福岡にぎわい交流館や駅前広場と一体的に利用できる広場空間となるよう、福岡にぎわい交流館多目的広場を整備した。

### ⑥-1 まちなかサインの設置

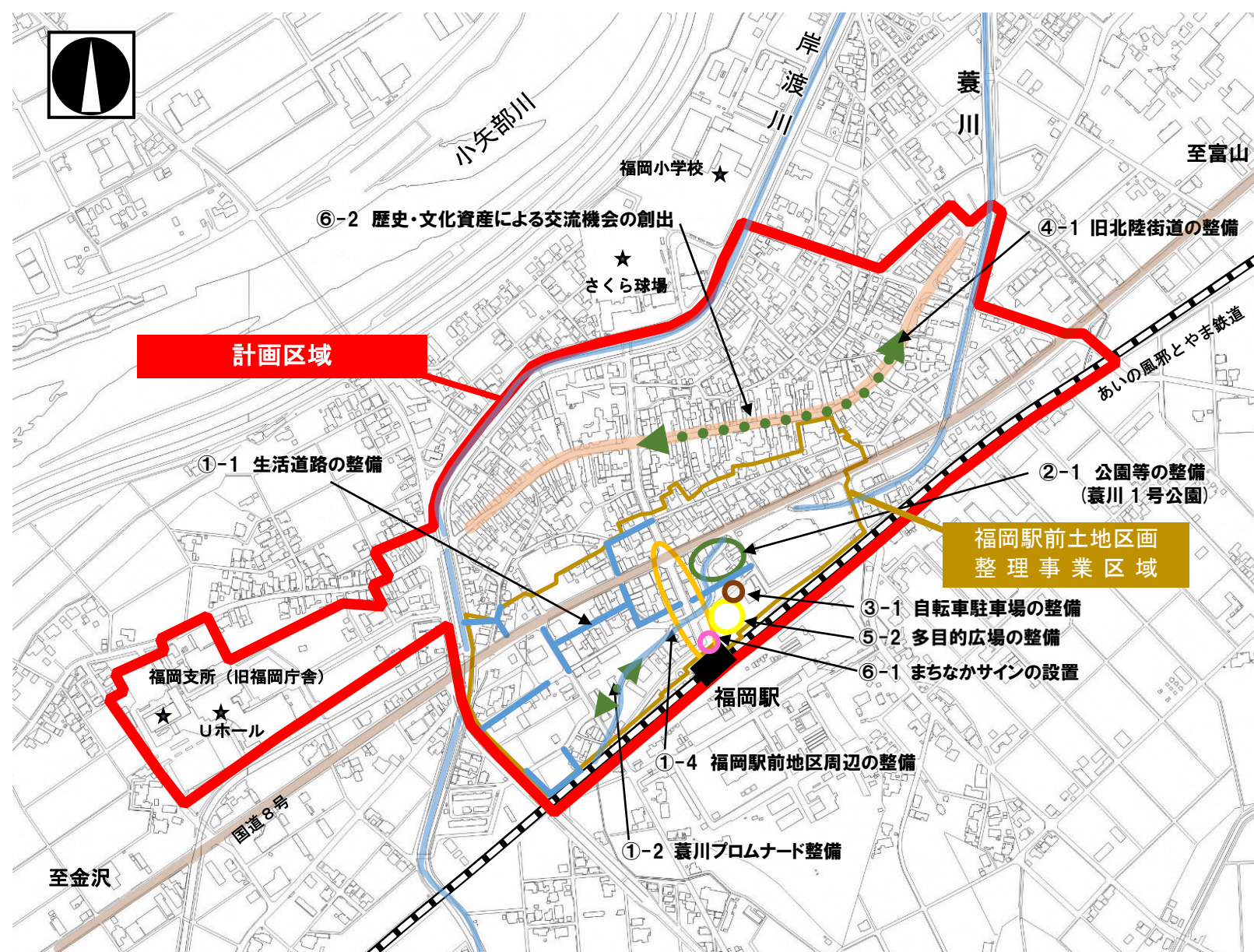


歩行者の回遊を促し、歴史・文化資産のPRを図るため、駅前広場に歩行系案内サインを設置した。

### ⑥-2 歴史・文化資産を活かした交流機会の創出



散策体験教室事業(令和4年11月実施の様子)  
地区内外の交流を促し、多文化・多世代によるにぎわいの創出を図るため、旧北陸街道を中心にイベント等を実施した。



Ⅲ. 事後評価

■ 数値目標の達成状況

※従前値…事業開始前の実績値

※目標値…事業終了時（R5 年度末）に達成すべき数値目標

※評価値…計測時点で「評価基準日（R5 年度の最終日）における値。  
確定できない場合には評価時点のデータ等から評価基準日における『見込み』の値を推計し、それを暫定的に『評価値』として代用する。その場合には交付終了翌年度等にフォローアップを行い、評価値を確定値として求め直し、事後評価を確定させる。

目標達成度（達成見込み）の評価基準

○ 評価値が目標値を上回った場合

△ 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

× 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善が見られない場合

【 指標 1 ； 地区内の人口密度 】

安全で快適かつ利便性の高い生活拠点づくりの成果を、地区内の人口密度の推移により評価する。

| 指 標  |                 | 従前値              | 目標値             | 評価値 *1          | 達成度<br>(達成見込み)     |
|------|-----------------|------------------|-----------------|-----------------|--------------------|
| 指標 1 | 地区内の人口密度        | 3 0 . 0          | 3 0 . 0         | <b>2 7 . 7</b>  | <b>×</b><br>(見込み値) |
|      | ※統計上、計画区域外を一部含む | 人/ha<br>(H27 年度) | 人/ha<br>(R5 年度) | 人/ha<br>(R5 年度) |                    |

\*1：評価値は H30～R4 年度の傾向から推計した R5 年度の人口を用いた見込み値

【考察】

従前値、目標値の 30.0 人/ha に対し、評価値は 27.7 人/ha で目標に達しなかった。

また、2 期計画期間中（H26～H30）からの改善も見られない状況であり、さらに高岡市全体や旧福岡町の動向と比較をしても改善の傾向は見られず、人口減少の流れに歯止めがかかっていない。

一方で、本地区内では、平成 19 年から進めている土地区画整理事業により、人々の暮らしを支える都市基盤がようやく整ってきた段階にあることから、引き続き、居住支援など移住・定住のための施策に取り組んでいく必要があると考えられる。

目標達成度

令和 5 年度における地区内の人口密度（評価値（見込み））は、目標値である 30.0 人/ha を下回る 27.7 人/ha となった。また、2 期計画期間中（H26～H30）の人口密度推移から令和 5 年度を推計すると 27.7 人/ha となり評価値と同様の結果であり、近年の傾向からの改善は認められなかった。よって達成度は「×」とする。

【目標達成度】

参考 1)  
高岡市内の人口推移

| 人口    | 2019/3/31<br>(H30年度末) | 2020/3/31<br>(R1年度末) | 2021/3/31<br>(R2年度末) | 2022/3/31<br>(R3年度末) | 2023/3/31<br>(R4年度末) |
|-------|-----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 福岡地区  | 3,071                 | 3,017                | 2,973                | 2,955                | 2,920                |
| 旧福岡町  | 12,727                | 12,537               | 12,400               | 12,238               | 12,109               |
| 高岡市合計 | 171,174               | 169,530              | 168,390              | 166,641              | 165,033              |

高岡市内人口推移

〔指標 2；住民満足度（住民アンケート調査）〕

歩いて暮らせるまちづくり、潤いのあるまちづくりの推進、地域の生活拠点としての利便性を高める交通結節機能の強化による成果を、住民満足度の変化で評価する。

| 指 標  |       | 従前値               | 目標値              | 評価値 *2               | 達成度<br>(達成見込み) |
|------|-------|-------------------|------------------|----------------------|----------------|
| 指標 2 | 住民満足度 | 4 8 %<br>(H30 年度) | 5 8 %<br>(R5 年度) | 6 5 . 3 %<br>(R5 年度) | ○<br>(確定値)     |

\*2：評価値は、R5 年度の実績値

【考察】

従前値 48％(H30 年度)、目標値 58％(R5 年度)に対し、評価値は 65％と目標値を上回った。

設問ごとの満足度は、「①鉄道やバスの公共交通の利便性が良い」、「②行政施設や文化施設などの公共施設の利便性が良い」が高く、回答者の 8 割弱から評価されている。これは、土地区画整理事業による道路や公園等の整備に加え、駅前広場や福岡にぎわい交流館多目的広場の整備が目に見える形で表れてきたことが影響していると推察される。

また、平成 20 年度からの伸び率を見ると、全項目が上昇している中で、「③買い物や飲食などの店舗の利便性が良い」、「④人々が集い、活気やにぎわいが感じられる」が高い数値となった。特に④に関しては、福岡にぎわい交流館が令和 3 年度から指定管理者制度の導入により、民間企業が運営主体となり、地域の交流拠点として積極的に活用されていることや、提案事業で福岡歴史街道事業等のイベントを開催したことなどにより、評価が高まったと推察される。

令和 5 年 9 月に実施した住民アンケートに基づく住民満足度（4 つの設問の平均値）は、目標値 5 8 %を上回る 6 5 . 3 %となったため達成度は「○」とする。

| 従前値                       | 票 数   |               |        |        |
|---------------------------|-------|---------------|--------|--------|
|                           | 思う    | なんとなく<br>そう思う | そう思わない | 合 計    |
| ① 鉄道やバスの公共交通の利便性が良い       | 81    | 213           | 169    | 463    |
| ② 行政施設や文化施設などの公共施設の利便性が良い | 76    | 225           | 142    | 443    |
| ③ 買い物や飲食などの店舗の利便性が良い      | 32    | 149           | 269    | 450    |
| ④ 人々が集い、活気やにぎわいが感じられる     | 13    | 96            | 361    | 470    |
| 合 計                       | 202   | 683           | 941    | 1,826  |
| 割 合                       | 48.5% |               | 51.5%  | 100.0% |

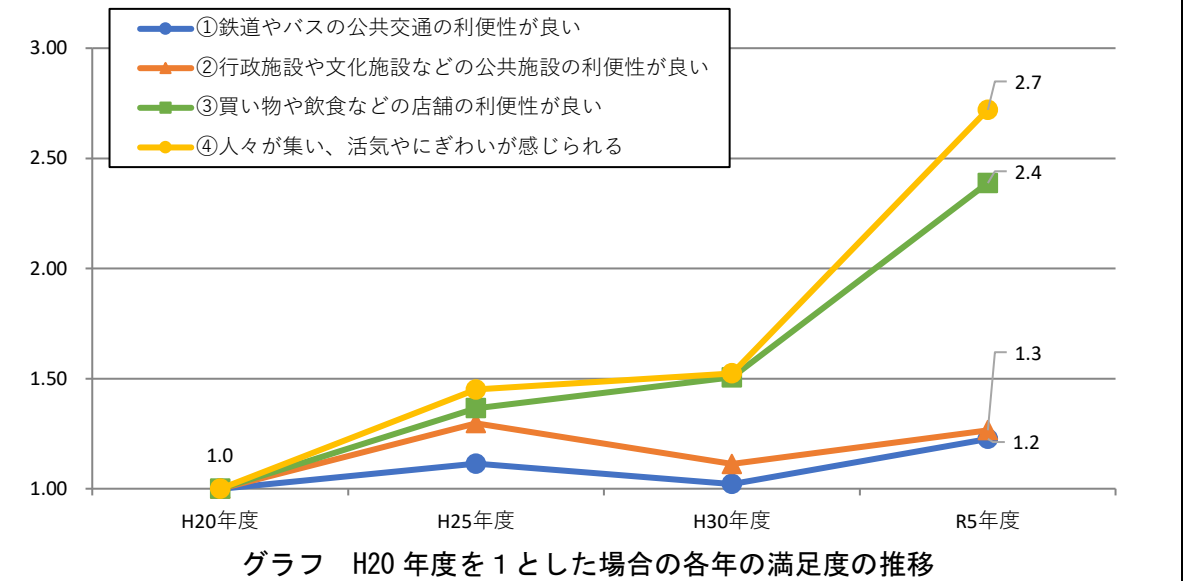
| 評価値                       | 票 数   |               |        |        |
|---------------------------|-------|---------------|--------|--------|
|                           | 思う    | なんとなく<br>そう思う | そう思わない | 合 計    |
| ① 鉄道やバスの公共交通の利便性が良い       | 141   | 276           | 130    | 547    |
| ② 行政施設や文化施設などの公共施設の利便性が良い | 113   | 271           | 113    | 497    |
| ③ 買い物や飲食などの店舗の利便性が良い      | 94    | 223           | 180    | 497    |
| ④ 人々が集い、活気やにぎわいが感じられる     | 45    | 148           | 273    | 466    |
| 合 計                       | 393   | 918           | 696    | 2,007  |
| 割 合                       | 65.3% |               | 34.7%  | 100.0% |

※本設問については「そう思う」「なんとなくそう思う」「どちらとも言えない」「そう思わない」計 4 つの選択肢から択一式で回答。

※評価値は「そう思う」「なんとなくそう思う」「そう思わない」のうち、「そう思う」「なんとなくそう思う」が占める割合で算出。

参考 2)  
1 期 計 画 か  
らの 推 移

| 設 問                       | 満 足 度 |       |       |       |
|---------------------------|-------|-------|-------|-------|
|                           | H20年度 | H25年度 | H30年度 | R5年度  |
| ① 鉄道やバスの公共交通の利便性が良い       | 62.2% | 69.3% | 63.5% | 76.2% |
| ② 行政施設や文化施設などの公共施設の利便性が良い | 61.1% | 79.2% | 67.9% | 77.3% |
| ③ 買い物や飲食などの店舗の利便性が良い      | 26.7% | 36.5% | 40.2% | 63.8% |
| ④ 人々が集い、活気やにぎわいが感じられる     | 15.2% | 22.1% | 23.2% | 41.4% |
| 設問①～④全体                   | 40.1% | 51.6% | 48.5% | 65.3% |



〔 指標 3 ； 文化交流施設の入館者数（福岡にぎわい交流館等） 〕

歴史・文化資産を活かした交流拠点づくりの成果を、文化交流施設の入館者数の推移で評価する。

| 指 標  |                    | 従前値                     | 目標値                     | 評価値 *4                         | 達成度<br>(達成見込み)     |
|------|--------------------|-------------------------|-------------------------|--------------------------------|--------------------|
| 指標 3 | 文化交流施設*3 の<br>入館者数 | 125,365 人/年<br>(H29 年度) | 140,000 人/年<br>(R 5 年度) | <b>123,781 人/年</b><br>(R 5 年度) | <b>×</b><br>(見込み値) |

\*3：福岡にぎわい交流館〔公民館・交流館〕（フクール）、福岡中央公民館本館（Uホール）、ミュゼふくおかカメラ館、まちづくり福岡工房（いっぷく処）、雅楽の館

\*4：評価値は、新型コロナウイルス感染症の影響で激減した入館者数が回復の傾向を見せた令和2年度以降の傾向から推計した見込み値

【考察】

従前値 125,365 人/年(H29 年度)、目標値 140,000 人/年(R 5 年度)に対し、評価値は 123,781 人/年で目標に達しなかった。これは、新型コロナウイルス感染症の影響で大きく落ち込んだ入館者数が、徐々に回復してはいるものの、未だ回復しきっていないことが大きな要因として考えられる。

一方で、「福岡にぎわい交流館」は令和2年度から4年度にかけて大きく回復が見られる。これは、提案事業の福岡歴史街道事業で福岡にぎわい交流館を活用したこと、令和4年度から福岡町つくりもんまつりが再び開催されたこと、そのほか、にぎわい創出に向けて様々なイベントが開催されたことなどによる効果と考えられる。

|             |                                                                                                                                                             |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目標達成度       | <p>令和5年度の文化交流施設全体の入館者数（評価値（見込み））は、目標値である 140,000 人/年を下回る 123,781 人/年となった。</p> <p>また、当時増加傾向にあった従前値 125,365 人/年も下回ったことから、近年の傾向よりも改善が見られないと判断し、達成度は「×」とする。</p> |
|             |                                                                                                                                                             |
| 参考 3)       | 施設毎の入館者数の推移を見ると、新型コロナウイルス感染症の影響により、すべての施設で令和元年度以降に大きく減少している。                                                                                                |
| 施設毎の入館者数の推移 | <p>近年は、すべての施設が徐々に回復しており、なかでも「福岡にぎわい交流館」は大きく回復し、令和4年度は、令和5年度の目標値近くまで回復した。さらに、令和5年度の上半期は、目標値の7割を超えており、施設単体では達成することが想定される。</p>                                 |

■ 実施過程の評価

〔 官民連携による取組の実施状況 〕

- ・地域住民等の合意形成を図るための説明会やワークショップの開催状況の確認
- ・地域住民・団体、民間企業等と連携した社会実験、イベント、まちづくり活動の確認

高岡市が主体となり実施した提案事業の福岡歴史街道事業では、地域のまちづくり会社や活動団体と連携したイベントを開催し、市内外から延べ 700 人以上の方が参加した。

① 散策体験教室事業

|      |                                                       |
|------|-------------------------------------------------------|
| 取組概要 | 観光ボランティアのガイドと一緒に菅笠問屋の歴史的な町並みが残る旧北陸街道を散策し、歴史や文化について学ぶ。 |
| 連携団体 | (株) ウエルカム福岡<br>観光ボランティアグループ「さくらの会」                    |
| 実施日  | 令和 4 年 3 月 20 日(日) : 24 名                             |
| 参加者数 | 令和 4 年 11 月 5 日(土) : 16 名                             |



② 菅に触れる製作体験教室事業

|      |                                                         |
|------|---------------------------------------------------------|
| 取組概要 | 福岡地域特産の菅を使った小物作りやミニ菅笠作りを体験する。                           |
| 連携団体 | (株) ウエルカム福岡<br>菅っこメイト (令和 3 年度)<br>越中福岡の菅笠振興会 (令和 4 年度) |
| 実施日  | 令和 3 年 11 月 28 日(日) : 15 名                              |
| 参加者数 | 令和 4 年 8 月 20 日(土) : 39 名                               |



③ まちの宝探しウォークラリー事業

|      |                                                             |
|------|-------------------------------------------------------------|
| 取組概要 | 菅笠問屋の歴史的な町並みが残る旧北陸街道周辺を、スタンプ・クイズラリーを楽しみながら散策し、歴史や文化に触れてもらう。 |
| 連携団体 | (株) ウエルカム福岡                                                 |
| 実施日  | 令和 4 年 7 月 30 日(土) : 155 名                                  |
| 参加者数 | 令和 5 年 3 月 5 日(日) : 500 名以上                                 |



〔 持続的なまちづくり体制の構築状況 〕

都市再生整備計画に関わる取組をきっかけとして組成又は強化され、交付期間終了後も継続的にまちづくり活動を担う組織の確認

(株) ウエルカム福岡は商工会、市民団体及び行政等と連携しながら、福岡町を中心に、にぎわいと活性化に繋がる事業の企画・運営を行っているまちづくり会社である。また、都市再生整備計画事業においても本市と連携しながら、まちづくりに関する様々な活動を継続的に展開している。

同社は福岡町観光協会の事務局を務め、福岡町 4 大イベント（福岡さくらまつり、リバーサイドフェスタ、福岡町つくりもんまつり、ふくおか産業フェスティバル）の開催にも参画しているほか、福岡町商店街活性化委員会等の地域活動にも携わり、様々な「にぎわい創出イベント」の企画・運営を行っている。

令和 3 年度から福岡にぎわい交流館の指定管理者となり、民間のノウハウを活かした柔軟な対応が可能になったことに加え、令和 5 年度には福岡にぎわい交流館多目的広場の供用を開始したことから、今後は福岡駅前を中心としたイベントの開催など、より一層の活動の展開が期待される。



福岡さくらまつり



リバーサイドフェスタ



福岡町つくりもんまつり



ふくおか産業フェスティバル



ふくおかひなまつり



ふくおか七夕納涼祭



つくりもん市

■ 今後のまちづくり方策

整備方針（課題）に対して、前述した指標の達成状況やその結果に至った要因、また、本事業を通じたまちの課題の変化などを踏まえ、今後のまちづくり方策を整理する。

| 都市再生整備計画の整備方針（課題）                                                                                  | 主な達成状況・残された課題等 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 継続・改善の基本方針                                                                                                                                                                                                                                                            | 想定される事業                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>安全性、快適性、利便性の高い生活拠点づくり</b><br>◇歩いて暮らせるまちづくりの推進<br>◇潤いのあるまちづくりの推進<br>◇地域の生活拠点としての利便性を高める交通結節機能の強化 | 達成されたこと        | <ul style="list-style-type: none"><li>駅前線など土地区画整理事業区域内の道路は、安全で快適かつ利便性の高い道路空間を整備し、また、旧北陸街道は修景整備を実施した。</li><li>菟川１号公園や２号街区公園を整備し、駅前や中心市街地に潤い・憩いの空間が形成された。</li><li>駅前広場や福岡にぎわい交流館多目的広場を整備したことにより、公共交通や公共施設の利便性に対する住民の満足度が向上した。</li></ul>                                                                              | <b>① 移住定住の促進</b><br>移住定住の促進に向けて、快適で暮らしやすい居住環境を整えるため、生活に不可欠な都市基盤を適切に管理するとともに、引き続き、居住支援など移住・定住のための施策に取り組む。<br><br><b>② 歩行者ネットワークの充実</b><br>生活拠点や文化交流拠点をつなぐ歩行者ネットワークについて、誰もが安心して快適に歩ける歩行者空間としての充実を図る。<br><br><b>③ 防災まちづくりの推進</b><br>安全安心に暮らし続けることができるよう、災害に強いまちづくりを推進する。 | ①-1 道路や公園等の適切な維持管理<br>①-2 子育て世帯や移住・定住者への居住支援<br>①-3 空き家・空き地の利活用の促進と支援<br><br>②-1 連続性を持った歩行者空間の整備やバリアフリー化<br>②-2 回遊性を促す案内サインの充実<br>②-3 ポケットパークなど休憩スポットの整備<br><br>③-1 街区公園等を防災の拠点や施設として活用<br>③-2 河川や水路等の適切な維持管理<br>③-3 各種ハザードマップの作成・更新 |
|                                                                                                    | 残された課題         | <ul style="list-style-type: none"><li>連続性のある歩行者動線を確保するため、現在整備をしている歩行者ネットワークの整備推進に努める必要がある。</li><li>潤いのある居住環境や歩行者が休憩・滞留できる環境の形成に向けて、現在整備をしている公園やポケットパークの整備推進に努める必要がある。</li></ul>                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                      |
|                                                                                                    | 新たな課題          | <ul style="list-style-type: none"><li>地区内人口は減少傾向が続いているため、引き続き、移住・定住の促進に取り組んでいく必要がある。</li><li>安全安心な居住環境の形成に向けて、近年、頻発・激甚化している自然災害への対応も必要である。</li></ul>                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                      |
| <b>歴史・文化資産を活かした交流拠点づくり</b><br>◇歴史・文化資産の価値の向上<br>◇歴史・文化資産と一体となった交流の場の形成<br>◇歴史・文化資産のPR等を兼ねた交流機会の創出  | 達成されたこと        | <ul style="list-style-type: none"><li>旧北陸街道は、沿道の歴史的な街並みと調和した道路の修景化によって、景観価値を高めた。</li><li>福岡にぎわい交流館は、コロナ禍の影響で入館者数が一旦大きく落ち込んだが、イベント会場としての活用、指定管理者である(株)ウェルカム福岡が企画運営する催しなどによって入館者数は急速に回復し、交流の場として機能している。</li><li>提案事業として実施した「散策体験教室」、「菅に触れる製作体験教室」、「まちの宝探しウォークラリー」は延べ700人以上の参加者を集め、歴史・文化資産のPRや参加者間の交流に貢献した。</li></ul> | <b>④ 歴史・文化資産の価値の向上</b><br>旧北陸街道やその沿道、また、周辺の文化交流施設の価値を高めるため、修景整備や交流機能の強化を行う。<br><br><b>⑤ 歴史・文化資産の活用</b><br>人々の交流を促し、地域の活気やにぎわいを創出するため、歴史・文化資産を活かしたイベントなどを継続的に開催する。<br><br><b>⑥ 官民連携による地域の活性化</b><br>民間企業や市民活動団体などが主体となって実施する地域活性化に係る取組を支援する。                           | ④-1 旧北陸街道及び沿道の修景整備<br>④-2 文化交流施設の機能強化<br><br>⑤-1 歴史・文化資産を活用したイベント等の開催<br><br>⑥-1 民間主体の地域活性化に係る取組に対する行政支援                                                                                                                             |
|                                                                                                    | 残された課題         | 福岡にぎわい交流館以外の文化交流施設の入館者数は、コロナ禍以後、徐々に回復しているものの、コロナ禍以前の水準まで戻っていない施設も見られるため、引き続き交流の場として利用を促す必要がある。                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                      |
|                                                                                                    | 新たな課題          | 住民満足度によると、“活気やにぎわい”に対する評価が、以前よりは大きく伸びているが、他の設問と比べると低いため、交流の場や機会を引き続き創出する必要がある。                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                      |

■ 今後のスケジュール

令和６年３月、評価結果を国へ提出し、公表する。

■ フォローアップ計画時期と計測方法

- ・指標１：令和６年４月以降、令和５年度の地区内の人口密度を確定値とする。
- ・指標３：令和６年４月以降、令和５年度の文化交流施設の入館者数を確定値とする。